

新年の「あいさつ」

勝山市長 山 岸 正 裕

「持続可能な自治体を
めざして」



新年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、ご健勝にて輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年、勝山市は市制施行60周年を迎え、9月1日には記念式典を盛大に執り行いました。また様々な60周年記念事業を実施し、市民の皆さんと共に60周年を祝うことができました。

さて、市長就任以来「市長となんでも語ろう会」を開催し、市民の皆さんの声を聞いてきましたが、更に深く地域の様々な声を聞き市政に活かすために、5年前から市内10地区との「市長と語る会」を実施しており、昨年も10月から11月にかけて実施しました。この取り組みにより勝山市全体の地域課題をよりきめ細やかに把握し、事業実施の優先順位を付けることで行財政計画に基づく適正な事業進捗が図れるようになり、平成25年度までの4年間で、1000件を超える要望に対し50%以上を対応・実現させ、その実施事業費総計は約11億

3746万円となっていました。今後も行政と各市区と培ってきた信頼関係をさらに深めて、市民力と地域力を高めていきます。

また、勝山市は日本有数の恐竜化石発掘地であることから市全域が「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として日本ジオパークに認定されています。これは、もともとユネスコの支援により世界と日本で組織化された委員会が認定するもので、ジオパークは地域固有の地質遺産であると同時に、その土地の自然・文化と有機的に連動し、保全活動や教育、ツーリズムなどと一体的に取り組んで、地域の持続的な発展に結びつけることを目的としたものです。

一方、市長就任以来、市民の皆さんと一緒に考えてきた「ふるさとルネッサンス」を理念とした「エコミュージアム構想」に基づくまちづくりは、スタートから3年ごとにステップアップしながら14年目を迎え、これまでに北谷の鯖の熟れ鮓しや、野向町のエゴマ、荒土町の炭など、各地区の伝

統文化をコミュニティビジネスとするなど、各地域の活力を生み出してきました。

今後はこのエコミュージアムの取り組みをジオパークに活かして、「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」という新たなステージで地域固有の魅力を発信する、これまで以上の意欲ある取り組みを市民と一体となって図っていきます。

また、持続可能な自治体としての必須の要件は次世代の育成です。勝山市は、全小中学校がユネスコスクールに加盟し、ESD教育を実践している全国でも数少ない市であり、ふるさと勝山への愛着と誇りが醸成されてきています。

そのほか、英語教育強化拠点地域として全国18地域のうちの1つに勝山市の中部中学校とその校下の小学校が指定されました。

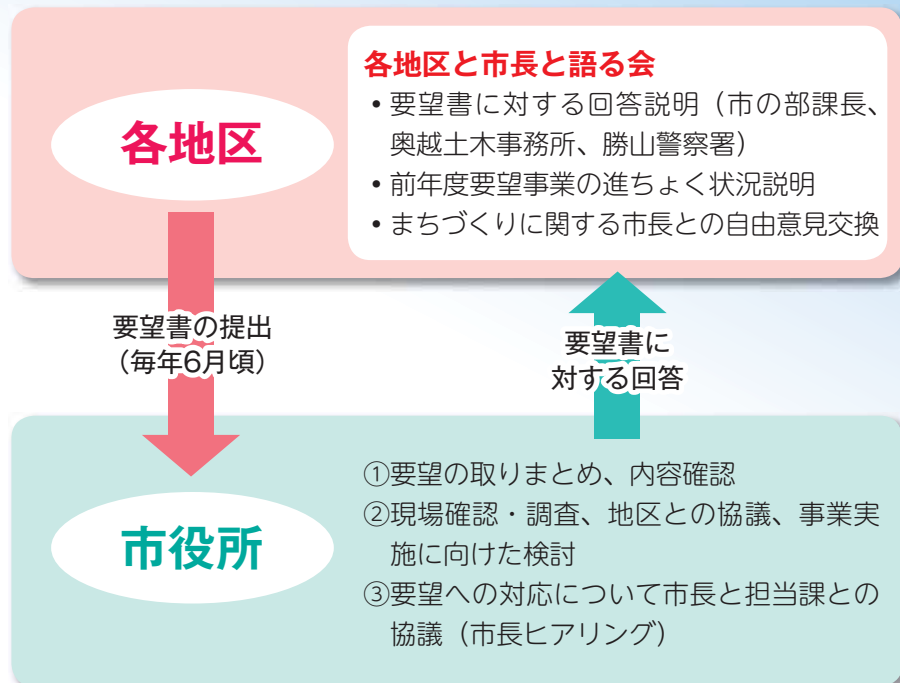
本年もこのように次世代の子どもたちに、美しく魅力にあふれ、いつまでも住みたくなるまち、「小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山」を目指して市政に取り組んでまいります。

地域の「声」を市政に

「各地区と市長と語る会」5年間の実績

平成22年から市内全10地区（112区）を対象として「各地区と市長と語る会」を毎年度秋に実施し、各地区からのまちづくりに関する要望をとりまとめ、その実現に向けて対応を行ってきました。今年度も10月から11月にかけて実施しました。これまでの5年間の実績をふりかえり、まとめました。

「市長と語る会」実施の流れ



各地区と市長と語る会

- ・要望書に対する回答説明（市の部課長、奥越土木事務所、勝山警察署）
- ・前年度要望事業の進ちょく状況説明
- ・まちづくりに関する市長との自由意見交換

- ①要望の取りまとめ、内容確認
- ②現場確認・調査、地区との協議、事業実施に向けた検討
- ③要望への対応について市長と担当課との協議（市長ヒアリング）



市長と語る会の様子（10月23日 鹿谷公民館）

年度別要望件数および要望への対応実施事業費

年度	要望件数合計	実施事業費	4ヶ年合計
H22	227件	3億4,401万円	11億3,746万円
H23	231件	2億8,266万円	
H24	291件	2億 675万円	
H25	282件	3億4,036万円	
H26	286件		

※市が実施した事業のみ計上

これまでの成果

①よりの確に課題把握

各地区からの要望は、地域課題を把握するための「ツール」と位置づけ、行政側だけでは果たせない、よりきめの細かい課題把握および地域と一体となった的確な課題解決ができるようになりました。

②スムーズな事業推進

地域課題の全体を把握し、事業実施の優先順位を付けることで、行財政計画に基づく適正な事業推進が図れるようになりました。

③自由に話し合える場へ

語る会の運営の方法として、平成24年度までは要望に対する回答説明に終始していましたが、各地区からの要望により平成25年度からは、市長と参加者が自分たちの地域や勝山市全体のまちづくりについて自由に話し合う時間を大幅に取るようになり、語る会の持ち方が変化してきました。

④地域との信頼関係

要望への対応については、毎年その進捗状況を各地区へすべて報告することで、行政と地域との信頼関係の構築と、地域と一体となった課題

解決が図られるようになりました。

⑤県と市の協力体制強化

県機関への要望事項については、奥越土木事務所および勝山警察署の担当者が出席し回答説明することで、課題解決に向けた県機関の協力体制および市との連携体制がより強化されました。

今後この成果を踏まえ、市民力、地域力によるまちづくりの推進に努めていきます。

私から一言

勝山市区長連合会会長

杉平 信夫さん

市民の皆さん一人ひとりが住みやすいまちづくりのために情報を共有することで、地域住民同士が協力し、行政とともに地区の課題を解決していくことが大事だと考えます。

市長と語る会も5年前から全地区で開催されるようになり、各地区の要望が正確に市に伝わるようになってきたことはたいへん良いことだと思います。語る会の場で要望に対する回答をいただく、区長および関係者が理解し、その場で意見交換できることが重要です。今後この取り組みを継続してもらいたいと考えています。